

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4672400068
法人名	株式会社 九州保健医療
事業所名	グループホーム おおうら
訪問調査日	平成21年5月13日
評価確定日	平成21年6月12日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4672400068
法人名	株式会社 九州保健医療
事業所名	グループホーム おおうら
所在地	南さつま市大浦町8232番地 (電話) 0993-58-5102
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年5月13日

【情報提供票より】(平成21年4月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月6日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	7人, 非常勤 11人, 常勤換算 14.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	11,100 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (50,000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	200 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4月23日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	11名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83.2歳	最低	71歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉見医院 大浦歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

雄大な山々を背景に、ゆったりとした広い敷地に建てられたホームである。周囲には美しい花々が植えられ、畑には旬の野菜が育っている。職員は、利用者から農作物の作り方や料理方法について教わるなど、共に過ごし支えあう関係が築かれている。ホーム主催の夕涼み会や敬老会には、地域の方々が大勢参加して下さり、地元の保育園や小学校の運動会では観覧場所を確保して下さるなど、地域との交流が深まっている。健康管理面については、看護職員の配置に加え、協力医療機関との密接な連携により、利用者およびご家族にとって大いに安心できる体制となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	月に1回開かれるカンファレンスの中で、自己評価について職員全員で話し合い、管理者が中心となってまとめ上げている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、協力医療機関・行政・警察・利用者ご家族・地域住民代表で構成されており、ホームの状況や行事等の活動報告を行っている。参加者からは、それぞれの立場での意見や要望が出され、サービスの質向上に活かせるように取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議にご家族の参加があり、意見箱も設置している。また、敬老会や夕涼み会など、ホームの行事にご家族の参加を促し、意見や要望を表わす機会作りに取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内の夏祭りや小学校・保育園の運動会に参加したり、ボランティアによる太鼓踊りや、教職員・学生の職場体験を受け入れている。ホームで行われるイベントについては、近隣住民宅へチラシを配布したり、ホームの掲示板で案内をするなど、地元の人々との交流に積極的に努めている。

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で話し合い、地域密着型サービスとしての役割を理解した上で独自の理念を作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や事務所に掲げ、毎朝の申し送り時には職員全員で唱和している。カンファレンスで理念に沿ったケアの方法を話し合い、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の夏祭りや小学校・保育園の運動会に参加したり、ボランティアによる太鼓踊りや、教職員・学生の職場体験を受け入れている。ホームで行われるイベントについては、近隣住民宅へチラシを配布したり、ホームの掲示板で案内をするなど、地元の人々との交流に積極的に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月に1回開かれるカンファレンスの中で、自己評価について職員全員で話し合い、管理者が中心となってまとめ上げている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、協力医療機関・行政・警察・利用者ご家族・地域住民代表で構成されており、ホームの状況や行事等の活動報告を行っている。参加者からは、それぞれの立場での意見や要望が出され、サービスの質向上に活かせるように取り組んでいる。		都合により予定された住民代表の参加が困難な場合は、他の住民の方にも声をかけてみるなどして、地域住民の参加機会を確保するように努めていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に、制度についての質問や相談を行っており、ホームの現状や計画を報告している。また、運営推進会議以外にも、ホームに立ち寄り、利用者の暮らしぶりを見てもらう機会を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の食事・排泄・睡眠状態・暮らしぶりについて、担当職員が項目別に記載したものを、3ヶ月に1回、写真を添えてご家族に郵送している。年2回発行される「グループホームおおうら新聞」の中では、ホームの活動内容や職員の紹介も行っている。また、状態変化や受診結果については面会時や電話で報告しており、金銭出納帳は面会時に見ていただき、確認印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族の参加があり、意見箱も設置している。また、敬老会や夕涼み会など、ホームの行事にご家族の参加を促し、意見や要望を表わす機会作りに取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員交代があった場合は、新人職員の研修期間を設けている。利用者とは徐々に馴染むために、時間をかけて段階を経ながら関わるようにしており、利用者へのダメージ防止に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回、公民館を借りて職員研修会を開き、講師も職員が務めている。グループホーム連絡協議会の研修会参加や、スキルアップのための研修紹介をするなど、職員の希望を聴取しながら知識・技術の向上に取り組んでいる。職員の立場や経験など、段階に応じて育成するための計画は今のところ立てられていない。	○	職員の立場や経験、習熟度等、段階に応じて育成するための計画を立て、さらなる資質の向上に努めていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、他ホームの管理者と情報交換を行うように努めている。グループホーム連絡協議会が実施する交流会や研修会にも積極的に参加して、サービスの質を向上させる取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学に来て一緒にお茶を飲んでもらったり、見学に来られない場合は、病院や自宅へ職員が面会に行くなどして、徐々に馴染めるように配慮している。また、利用開始後に帰宅願望が強い場合は、ご家族と相談して面会に来ていただくなどして、安心感を持ってもらえるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	苗の植え方や時期など、畑仕事について利用者から教えていただいたり、草取りやツワ剥き、ラッキョウ漬けなどを手伝ってもらうなど、お互いに支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの中での表情や言動に注意し、時間をかけて傾聴することで思いや意向を把握するように努めている。職員会議の中で、利用者の様子や意向などについて振り返りながら話し合い、情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族の意見や要望を聴取した上で、課題になることは毎月のケアカンファレンスで話し合い、具体的なサービス内容を記した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員からの申し送り事項や生活記録、支援経過記録を基に評価を行い、定期的および状態変化時や本人・ご家族の要望に応じて見直しを行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	専門医への通院同行や外出支援を行っているほか、看護職員を配置して協力医療機関と連携を取り、受診や相談を密に行いながら健康面での支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診にご家族が付き添えない場合は、職員が同行している。受診に際しては、日々の観察事項を情報提供するとともに、受診結果についてご家族に報告するなど、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取り期に関する指針」を定めており、重度化や終末期における対応について利用前に説明し、医療連携体制についての同意書をいただいている。利用者の状態に応じて、その都度ご家族と話し合いながら意向を確認するとともに、医師や職員などの関係者間で検討しながら方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時のオリエンテーションの中で、個人情報の取り扱いについての指導を行い、誓約書を交わしている。個人記録等の書類管理は、適切に行われている。研修の中では自尊心を傷つけない対応を指導し、尊厳について学ぶ機会を設けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重しており、状態や希望に合わせて、起床・就寝時間、食事時間や場所を選べるなど、柔軟に対応している。行事についても、気が向かない方については無理強いすることなく、個別に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好調査を行い、希望のメニューを献立に取り入れられたり、一緒に買出しに出かけたりしている。調理の下ごしらえや盛り付け・配膳・下膳は、力量に応じて手伝ってもらっており、季節の食材を取り入れながら、穏やかな雰囲気の中で職員と一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日午後からとなっているが、利用者の状態や希望に応じて柔軟に対応できる。気の進まない利用者に対しては無理強いすることなく、タイミングを見計らったり希望を聞き入れながらお誘いするなど、対応を工夫しながら支援している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	踊りや歌など、利用者の得意とすることが発揮できる機会を作っている。毎日軽体操を行っているほか、利用者の状態や希望、天候に合わせて、散歩やドライブなどの気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	美容室への送迎支援や、散歩、ドライブ、買い物など、一人ひとりの意向や身体状況に合わせて、日常的な外出の支援を行っている。また、顔馴染みの利用者が居る別ユニットを訪ねることも、楽しみの一つである。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠されておらず、外への移動は自由に行える。利用者が外出された場合は職員がさりげなく同行して見守るなど、近隣住民や警察の協力を得ながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防分遣所の協力を得るなどして、通報・消火・避難の防災訓練を年2回実施している。さらに定期的な設備点検と、全職員を対象にした災害研修を行っている。また、近隣の住民にも緊急時の協力を呼びかけており、マニュアルも整備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の目安を定めて摂取量を記録に残しており、職員間での引継ぎや状態把握が正確にできる仕組みとなっている。食事については摂取カロリーの目安が定められ、利用者の状態や力に合わせて摂取しやすい形態にしたり、治療食にも対応するなどの支援が行われている。また、利用者毎に算出した適正体重を基に、体重管理を行っている。		実質的には十分な取り組みがなされているので、さらに専門的な裏付けを得る意味で、管理栄養士等に献立を見てもらい、助言を受けることを検討していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の周りには美しい花々が植えられ、畑には旬の野菜が育っている。居ながらにして、季節を身近に感じることができる。ホーム内にソファや談話スペースがあるほか、屋外にも椅子とテーブルがあり、思い思いの場所で居心地良く過ごせる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、机、椅子、箆笥、布団など、自宅で使い慣れた物を持ち込んでいただいている。また、ご家族の写真や絵、手作りの品など、好みの壁飾りをしながら、思い思いの居室空間が作れるように配慮されている。		